

2014年(平成26年)12月18日(木曜日)

## グローバルピッグファーム



子会社のしばたパッカーズで従業員も大幅に増やす(新潟県新発田市)

# 食肉加工能力2.5倍

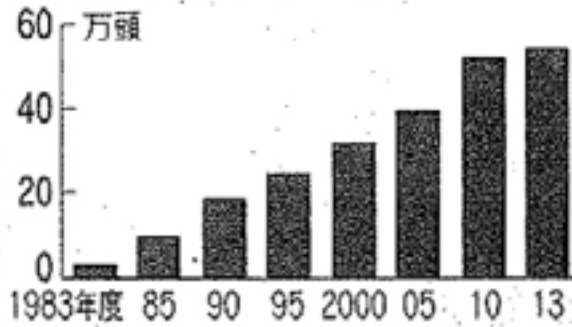
## 来秋、35億円投じ工場拡充

銘柄豚肉「和豚もちぶた」を生産するグローバルピッグファーム(群馬県渋川市、木村幸雄社長)は約35億円を投じて、自社の食肉加工工場を拡充する。新潟県内にある自社のと畜場を取り壊し、最新設備を備えた建物を建設する。処理能力を2・5倍の1日1000頭に増やす。生産から流通までを自社で実施することで豚肉の品質や安全性を高め、ブランド力を強化する。2015年秋にも完成する。

### 品質・衛生面も強化

同社の100%出資子会社、しばたパッカーズ(新潟県新発田市)のと畜場を2期に分けて拡充する。来年1月に古いと畜場を取り壊して、豚の係留場などを増設する2期工事開始。すでに1期工事として加工設備を設けた新棟の建設は完了し、稼働を始めている。2期工事完成で建物の延べ床面積は3・1倍の計約6700平方メートルになり、自社で生産する豚肉のうち約4割の加工が可能になる。と畜ラインには最新の設備を導入する。蒸気で豚の毛を処理する装置を

出荷頭数は年々増えている



採用し、皮付きの製品化を可能にした。肉に細菌が付着しづらくなるため衛生面を強化できる。

しばたパッカーズの従業員も大幅に増やす。1期工事完了で従業員数を2・6倍の80人に増員。来秋までにさらに70人増やして、150人体制にする予定だ。

グローバルピッグファームは06年、新発田市からと畜場を取得。運営は食肉事業協同組合に委託したが、12年にしばたパ

ッカーズを設立して業務を引き継いだ。環太平洋経済連携協定(TPP)の締結などを見据えて品質や安全性にこだわった豚肉生産に力をいれており、6次産業化を強化することでブランド力を高められると判断した。同社は1983年、全国40の家族経営農家が共同出資して設立した。現在、在グループ農場は81あり、年間出荷頭数は約54万頭。育種、飼料、生産、財務、出荷までグループ内で一貫したシステムを保持している。